

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月22日(水)

《心の畑を耕すこととは》

同じ事が起こっても、その同じ事に対する反応は、人によってそれぞれに全部違います。極端的に言いますと、例えば、ある人は同じ事を見ても腹を立て、またある人は喜び、ある人は悲しくて涙を出す。なぜ同じ事に対する人々の感じ方は違うのでしょうか。同じ花を見ても、関心無く通り過ぎてしまう人もいれば、名も知らない小さな野の花を見ても賛美の歌を歌う人もいます。何が原因でそのような違いが出るのでしょうか。

昔から“心は畑”としてよく比喻されています。畑ならば、必ずやらなければならないことがあります。何だと思いませんか。それは“耕すこと”です。今日の福音(マタイ 7:15-20)では良い木と悪い木という表現があったのですが、では皆様はよい木でしょうか悪い木でしょうか。皆様が悪い木なら、このようにミサを捧げても空しいですよ。実るその実も決まっていることになりますから。(大笑)

さあ、福音が述べている意味はこういうことです。多分私達の“心の畑”には、初めはよい種だけ植えられたのでしょ。しかし私たちは、色々な環境の中で関係を作りながら生きています。その環境の中では必ず悪い否定的な種も植えられるでしょう。身近な親から来るものもあります。親のことを考えても「なぜ私に、あんなひどいことを言ったのか」と、憎む気持ちになる場合があります。

神様は私たちを作られる時、本当にきれいな何の汚れもない畑として作り、綺麗な種を植えて下さったと思います。しかし、私達が生きながら仕方なく段々汚れてしまい、その種は元のよい種を妨げてしまい、たまには殺してしまうことにもなっているでしょう。簡単に言いますと、性格がいいとか悪いとか、それは傷が多いか傷がないか、そしてその傷を乗り越えたのか、乗り越えられなかったのか、それで明らかになります。刑務所にいる人々を見て下さい。100%も 200%も傷だらけです。優しい環境、愛が溢れる環境で育って来た者は絶対にそのようなことは出来ません。もし、皆様の家庭の中に何か否定的な痛みがあれば、まず、なぜ私がこのようなことに襲われたのかと嘆きを見せず、痛みを見せずに、ご自分のことを振り返ってみてください。

“畑は耕す”と言いました。心はコントロールが出来ません。相手を見て腹が立ったら「ああ、なぜ私が腹を立てるのか、これからは腹を立ててはいけない。」と思ってもまた腹を立てます。ということは、畑はコントロールするものではありません。耕して少しずつよい種が沢山実られるように、私達がなんとかしなければならぬのです。その中の一つが信仰の生活かもしれません。御言葉に耳を傾けることかも知れません。ある日突然、私は「ああこれを悟った。これからは絶対しない。」と決心しても何日続けられるでしょうか。皆様の反応は今まで皆様が歩んで来た全てのことを表していることです。60年、70年癖になったものが、ある日突然変わるはずがありません。ですから逆に、あの人がなぜ変わらないかと責めないで下さい。変わる事が出来ないのです。そういう意味でその人が上

手く本当に相応しく変わるためには、非難より祈りを一回捧げてあげることが、その人の救いのために役立つと思います。このような姿勢が何よりも必要ではないかと思います。誰もが皆、否定的な心を持っています。しかし、否定的な心より良い心をもっと持っているから私たちは可能性があります。その可能性を生かしましょう。それが信仰の道だと思います。

皆様、「自分らしい何かをきなさい」、という表現が結構あります。今の自分のありのままのことを「自分らしい」と言うのでしょうか。いいえそうではありません。信仰的にはそのような言い方はしません。むしろ信仰的に「自分らしくきなさい」とは、神様が元からあなたに計画されたその姿、植えたその種も、そして結果も元の姿に戻りなさいという意味です。決して我がままでも「自分らしくきなさい」と言うことではありません。

皆様、よい木はよい実を結ぶのです。ですから、木がよい木に大きく育つよう頑張らなくてはいけません。悪い木が既に実を結ぶ時になってしまうと、悪い実をつけるのは当たり前です。悪い木だと思ったらその木をどのように切ってしまうか、取り除くかを考えなくてはいけません。それが“霊的な耕し”です。

皆様、時間がかかる戦いだと思います。私達がどの様であれ、もし意向があって意志があれば神様は必ず癒して下さいます。それが神秘であり奇跡だと私は信じています。

ありがとうございました。